

学校新聞

令和元年度

「薫風」第4号

12月25日(水)

# 薫風

～緑新たに風も薫れり～



発行元 東京都立大崎高等学校全日制課程 〒142-0042 品川区豊町2-1-7

## 一隅を照らす

校長 豊岡 耕一郎

いよいよ2学期も終わり、今年も残りわずかとなりました。2学期は行事が盛り沢山でしたが、勉強に学校行事によく頑張っていました。大会や発表会など部活動でも、活躍をした部が多くありました。男子バスケット部は新人戦支部大会において第一シードで臨み、見事ブロック優勝という快挙を成し遂げ（東京都ベスト12）、大崎高校として初めて、年明けの新人戦本選にシードとして臨むこととなりました。悲願の関東大会出場に向けた重要な一戦、思い存分力を発揮していただきたいと思います。女子バレー部は、新人選手権大会においてリーグ戦を2位で通過し、本戦でも1勝をあげるなど、着実に成果を出しています。特に粘り強さや明るさ、元気が出てきたことが非常にうれしく思います。他にも、ペーパージオラマ部の3年生檜木 礼君と防災部の3年生濱本 純玲さんが両部の代表として、東京都教育委員会から表彰されることとなりました。こちらも今までの活動が認められた成果であり、大変うれしいことであります。今後も大崎生の活躍に期待します。



## 一隅を照らす（これすなわち国宝なり）

2019年12月4日、アフガニスタンで30年以上にわたって人道支援を続けてきた医師の中村哲（てつ）さんが、凶弾に倒れ亡くなられました。パキスタンに赴任して、ハンセン病治療や難民キャンプでの一般治療にあたる傍ら、干ばつが厳しくなってきたアフガニスタンにおいて、自ら1500本の井戸を掘り、13キロの用水路を拓いて、農村復興のため大がかりな水利事業にも取り組まれました。このように、地元の人に寄り添いながら信頼関係を築き、医療を超えた支援活動を行っていた中村さんの追悼式において、アフガニスタンのガニ大統領が、アフガニスタンの国旗で包まれた中村さんの棺を自ら担いでいたことから、現地の人々からいかに敬愛されていたかを物語っており、悲しみの深さと、日本人にもこのような偉大な方がいらっしやっただけを誇りに思いました。この中村さんが生前、講演会等で使われていた言葉の中に、天台宗最澄の「一隅を照らす」があります。中村さんは、「我々は、世界中を救うことも照らすこともできない。できるのは身の回りからです。国際社会とか言われるけど、私が本当に知っているのは九州の一部とアフガニスタンの一部だけです。しかしその1つの真実を眺め続けることで、他のことも見えてくる。」とおっしゃっています。すなわち、一人ひとりが自分のいる場所で、だれも気付かないような社会の片隅（一隅）を照らすことこそがとても大切なのだと。

私も、中村さんのような偉業はとても成しえないですが、常々、自分の置かれた場所でベストを尽くしたいと考えています。



Kam Air 航空のFacebookより

## 防災支援隊の活躍

防災部は、11月17日（日）戸越5丁目町会の防災訓練に参加しました。地域の方々と一緒に炊き出しや、放水訓練を行いました。翌週の11月22日（金）には、本校グラウンド下を通っているトンネル内での交通事故を想定した救助活動に参加しました。本番さながらの本格的な訓練で、防災部の生徒たちがてきぱきと負傷者の救出と、手当てを行っていました。当日は、品川ケーブルテレビからも防災部が密着取材を受けていました。このような活動を見るたびに、本校生徒の頼もしさと、地域からの信頼を強く感じます。雨が降って冷える中、ご苦労様でした。



## 教科「人間と社会」体験活動の実施について

12月22日（日）、10月の台風の影響で中止になった「しながわ夢棧橋」の代替授業として、戸越公園と文庫の森の清掃活動を行いました。当日は気温も低く大変寒かったのですが、誰もふざける者もいないで、班で協力しながら一生懸命落ち葉やゴミ拾いを行っていました。

体育館では、1学年の半分のクラスが上級救命講習を受講しました。人工呼吸やAEDの操作、三角巾の使い方など、こちらも冷えた体育館で1日がかかりでしたが、皆さん最後まで集中して講義を受けていました。特に演習の時など、みんなで協力して、楽しみながら取り組んでいた姿は大変すばらしいと思います。このようなスキルは、実際に災害が起こって、身近な大切な人を救助しなければならないときに、必ず役に立ちます。「あの時やったのに」ってことにならないように、必ず自分のものにしておいてください。



それでは皆さん、体調にはくれぐれも気をつけて、3学期始業式には元気な顔を拝見できることを楽しみにしています。